

授業科目名	環境保健医学Ⅰ (公衆衛生学)	担当教員	佐藤 利栄, 谷口かおり (他 日程表に記載)
開講年次・学期	3年前期	必修/選択	必修
開講形態	講義	時間数/単位数	15時間
学習目標			
地域における疾病予防と健康増進を目指した地域保健・医療活動ができるようになるために、社会における健康課題とその成因・背景を、疫学を基礎として理解する。また、ライフサイクルに沿った健康課題に対して、根拠に基づく予防対策を身につける。保健医療政策により社会における疾病予防を理解する。公衆衛生学の理解により、社会や生活と医学・医療の橋渡しができることを目標とする。			
ディプロマポリシーとの関連			
<p>＜知識を統合し活用する能力＞</p> <p>基礎医学、社会医学及び臨床医学で習得した知識を統合し、医学・医療に関する事象を幅広い視野で考えることができる。</p>			
学修成果（到達目標）			
<ol style="list-style-type: none"> 1. 公衆衛生学がどのような学問か説明できる。 2. 疫学の重要性、疫学手法の種類と特徴、疫学の応用を理解する。 3. 保健統計を理解し、わが国の健康課題を説明できる。 4. 母子保健の仕組みと母子保健サービスについて説明できる。 5. 小児保健の概念と日本・海外における取組を概説できる。 6. 学校保健の概念と日本・海外における取組を概説できる。 7. 主な生活習慣病の動向、その発生要因、予防方法を概説できる。 8. 国や地方の保健医療行政における健康課題に対する取組について説明できる。 9. 国際保健に関する理解を深め、国際保健医療協力について概説できる。 10. 災害時の保健医療体制と現状について理解する。 11. グループダイナミクスを通じ、チーム医療の重要性を理解できる。 			
キーワード			
公衆衛生、疫学、母子保健、小児保健、学校保健、精神保健、高齢者保健福祉、疾病予防・健康増進、国際保健			
授業の進め方			
講義を基本とする。			
評価方法			
授業後の小テスト、出席、課題レポート（自己学習課題）を総合して評価する。			
合否基準			
授業後の小テスト、出席、課題レポート（自己学習課題）を総合的に考慮し合否判定を行う。			

教科書・参考書

【教科書】

特に定めない

【参考図書】

厚生労働統計協会編：国民衛生の動向、厚生労働統計協会

赤澤宏平他監修：公衆衛生がみえる、メディックメディア

小山洋他編：シンプル衛生公衆衛生学、南山堂

柳川洋他編：公衆衛生マニュアル、南山堂

中村好一：基礎から学ぶ楽しい疫学、医学書院

JM Last編：疫学辞典、日本公衆衛生協会

KJ Rothman：Modern Epidemiology thirad Edition, Lippincott Williams & Wilkins, 2008

RB Wallace：Public Health and Preventive Medicine Fifteenth Edition, Prentice-Hall International Inc. 2007

オフィスアワー

7月以降実施予定。

詳細については学内ホームページ等で周知。

コア・カリとの関連

B-1-1) 統計の基礎

B-1-2) 統計手法の適用

B-1-3) 根拠に基づいた医療<EBM>

B-1-4) 疫学と予防医学

B-1-5) 生活習慣とリスク

B-1-7) 地域医療・地域保健

B-1-8) 保健・医療・福祉・介護の制度

B-1-9) 国際保健